

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

令和元年度 兵庫県農業気象技術情報第6号 (10月情報) について (送付)

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
水稲	全 県 共 通	<p>1 生育 中～晩生品種の出穂期は平年並～ やや遅かった。成熟期は平年並になる と見込まれる。</p> <p>2 病害虫 トビイロウンカの発生はやや多い と予想される。</p>	<p>1 生育 出穂後、収穫までの積算温度は1,000℃～ 1,050℃が必要で、適期収穫に努める。収穫期は 急速に乾燥させないように注意する。毎時乾減 率の目安は、0.8%以下である(酒米は0.5%以下)。</p> <p>2 病害虫 本種は同じほ場内でも局所的に発生する傾向 がある。確認にあたっては、ほ場で少なくとも 3カ所(計100株)以上を調査し、ほ場全体の 発生状況を把握する。雌成虫および幼虫は株元 にいたので、株をかき分けての目視調査も有効 である。病害虫発生予察防除情報第4号(令和 元年9月20日発表)を参照のこと。 (http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/ 31boujyo4.pdf)</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
大豆	全 県 共 通	<p>1 生育 普通大豆は台風の降雨等の影響もなく、着莢数は平年並みである。一方、黒大豆は8月の干ばつと9月の高温の影響で着莢数はやや少なく、生育も遅れ気味である。また、湿害による生育不良や茎疫病の発生が見られる。</p> <p>2 病虫害 (1) 立枯性病害は、平年並みの発生と予想される。 (2) 吸実性カメムシ類、ハスモンヨトウは平年並みの発生と予想される。</p>	<p>1 生育 普通大豆は適期収穫に努める。「サチユタカ A 1 号」は難裂莢性であるが、刈取りが遅れると品質が低下するため適期に収穫する。 <刈取り適期の目安> ・子実水分20%程度（莢を振ると音がする）になったとき。 ・コンバイン収穫の場合は、茎水分50%以下になったとき。目安としては茎がやや黒みを帯びて、手でポキッと二つに折れるとき。刈取り前には青立ち株を引き抜く。 黒大豆は排水対策に努め、土壌水分を適切に保つ。</p> <p>2 病虫害 (1) 立枯性病害は排水不良が発病を助長する。急激かつ大量の降雨による停滞水が起こらないように排水対策等を実施して、ほ場管理に努める。 (2) ほ場をよく観察し、必要に応じて防除を実施する。</p>
麦	全 県 共 通	<p>1 栽培管理 <播種準備の留意事項> (1) 計画的な播種を行うため、水稻刈取り後、出来る限り早く、ほ場の排水対策を行う。 (2) 出芽、初期生育を良くするため、ほ場の pH調整を十分に行う。pHが低いと生育不良を招く。 (3) 有効莖数を確保するため、地域に合った播種時期・播種量とする。 (4) 施肥播種機の調整をしっかりと行う。</p>	<p>1 栽培管理 (1) 水稻の刈取り後、耕うん前に弾丸暗きょや額縁明きょを設け、表面排水を行う。特にほ場の四隅がコンバイン収穫時に轍(わだち)ができないようにする。本暗きょがない場合は、通常の弾丸暗きょの設置に加えて、排水口手前を40cm程度掘り下げ、3本程度の放射状の弾丸暗きょをサブソイラーで施工する。 (2) 石灰質資材は早めに施用し、土壌 pH6.0～7.0になるように調整する。土壌 pHが低いほ場は、施用量を増やす。 (3) 耕うんは播種直前に行い、県北部及び中山間部では10月下旬から、県南部では11月上旬から播種を行う。ただし、「ゆめちから」は10月下旬から播種を行う。 播種量は10 a 当たり、10月下旬で6 kg、11月上旬で8 kg、播種時期が遅くなれば、播種量を増やす。 (4) 播種前に播種量、施肥量、播種深度を調整してから播種し、播種時に微調整する。播種後、排水溝の設置、手直しを行う。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策		
キャベツ	千葉県共通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 9月に入り、猛暑が続いており、乾燥による活着・初期生育の遅れがみられる。</p> <p>(2) 適切な時期に追肥、除草を行う。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) ハイマダラノメイガは、やや多い発生と予想される。</p> <p>(2) ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウはやや多い発生と予想される。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 10月以降も晴天日が多く、平均気温は高く推移する見通しである。1週間以上、降雨がない場合、適宜、畝間への灌水等により、生育を促進させる。</p> <p>一方、ゲリラ豪雨や台風に伴う強風雨で茎葉が傷んだ場合、病害発生に注意し、早期に防除する。</p> <p>また、降雨後に滞水のないように排水に努める。</p> <p>(2) 結球開始初期の追肥は、畝肩または畝間に施用し、除草を兼ねて谷上げし、遅れないよう計画的に作業を行う。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) 幼虫が生長点を加害するため被害が大きく、被害を確認してからの防除では手遅れとなる。本種の発生が懸念される場合は、定植前後の予防的防除に努める。</p> <p>(2) 本虫は、中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、若齢幼虫期の防除を徹底する。</p>		
果樹	千葉県共通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 降雨等による果実品質の低下に留意し、適期収穫に努める。</p> <p>(2) 傷果や腐敗果等の除去に努める。</p> <p>(3) 干ばつや台風での落葉等により、樹勢低下が懸念されるため、収穫後は樹体栄養の回復を速やかに図る。また、越冬病害虫の抑制を図る。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 熟度や果皮色等から、収穫適期を判断する。</p> <p>(2) 温州ミカンの日焼け果は裂果しやすく、病害の発生源となるので樹上選別で除去する。</p> <p>イチジクの落果や腐敗果は、ショウジョウバエ類の発生につながるため、できるだけ早く園外に持ち出し処分する。また、疫病等の発生状況によって出荷を一時停止し、臨機防除を行う。</p> <p>(3) 樹体栄養の回復を図るため、礼肥の施用、少雨時のかん水を行う。越冬病害虫の防除を行う。</p>		
		<p>樹種別の生育状況（9月下旬：南あわじ市）</p> <table border="1"> <tr> <td>温州ミカン</td> <td>園によっては着果が少なく、夏秋梢の発生が多い。適度に降雨があり、昨年より樹勢は良好である。</td> </tr> </table>		温州ミカン	園によっては着果が少なく、夏秋梢の発生が多い。適度に降雨があり、昨年より樹勢は良好である。
温州ミカン	園によっては着果が少なく、夏秋梢の発生が多い。適度に降雨があり、昨年より樹勢は良好である。				

◎水稲・麦・大豆の栽培については「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考にすること。

※本情報は、9月26日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう1か月予報（9月28日～10月27日）

[令和元年9月26日 大阪管区气象台発表]

＜特に注意を要する事項＞

期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

＜予想される向こう1か月の天候＞

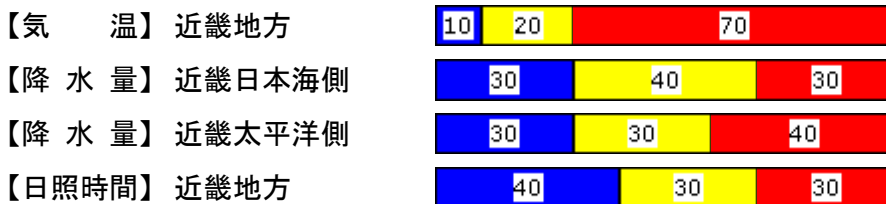
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わらるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

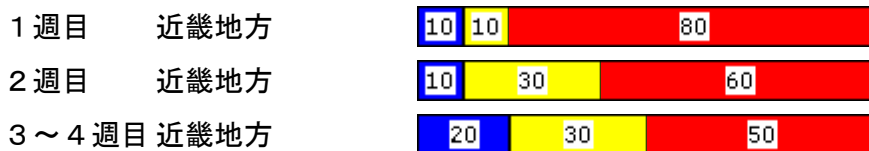
向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、高い確率50%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞



＜気温経過の各階級の確率（%）＞



凡例： ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

(2) 近畿地方の向こう3か月予報（10月～12月）

[令和元年9月25日 大阪管区气象台発表]

＜予想される向こう3か月の天候＞

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

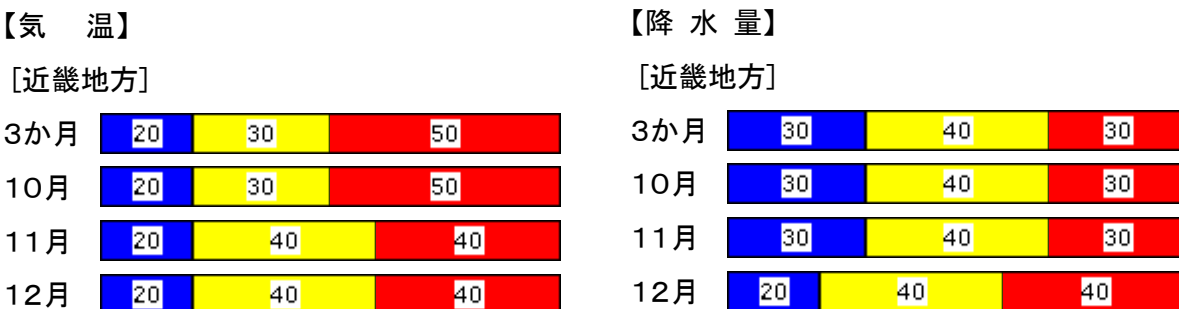
この期間の平均気温は、高い確率50%です。

10月 天気は数日の周期で変わり、近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。

11月 近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

12月 近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または高い確率ともに40%です。

＜向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率（%）＞



凡例： ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「病害虫発生予察情報」 <http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bo.jo/index.htm>
- ・「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」
<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・「Web 水稲生育予測システム」 <http://www.aginfo.jp/RGP/>
- ・「携帯用水稲生育予測」 <http://www.finds.jp/ricediag/kt/index.php>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」 http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078) 341-7711 (代表)
農産班: 主作・機械担当 内線 4074
農産班: 野菜担当 内線 4054
花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・県立農林水産技術総合センター
企画調整・経営支援部 TEL (0790) 47-2435
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790) 47-2410
農業技術センター 病害虫部 TEL (0790) 47-1222
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079) 674-1230
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799) 42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html

(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)